

2021年6月7日

高校教育改革に関する調査2021「ICT活用」編

コロナ禍で対面実施前提の「特別活動」や「進路指導」が停滞 一方、「ICTの活用」は計画以上に進展 ICTのオンライン授業への活用意向が過半数

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）が運営する、『リクルート進学総研』（所長：小林 浩）は、高校の教育改革に関する現状を明らかにするため、全国の全日制高校に対して、新学習指導要領、入学者選抜、ICT活用、キャリア教育、進路指導、学校改革等の取り組みに関する調査を実施いたしました。このたび2021年の調査結果がまとまりましたので、一部をご報告いたします。本調査によるリリースは「ICT活用」編、「進路指導」編の計2つあり、本リリースは「ICT活用」編です。※本調査は『キャリアガイダンス』編集部と『リクルート進学総研』が隔年で実施しており、今回で第21回目を迎えます。

2020年コロナ禍で推進された学校運営の取組

■計画通りいかなかった割合は「特別活動の取組(※1)」82.0%、「進路指導・キャリア教育の取組」69.0%と対面前提で実施してきた取組への影響が大きかった。

(※1) 特別活動とは「ホームルーム活動」や「生徒会活動」、入学式・文化祭・修学旅行等の「学校行事」のこと

■一方、計画以上に進んだのは「ICTの活用」が44.6%で圧倒的に高い。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）影響により高校では急速にICT活用が進んでいる。

ICTの活用状況・活用意向・活用推進のための取組

■96.7%の高校が授業・ホームルーム・探究などの教育活動にICTを活用している。

■「オンラインによる双方向型授業・学習支援」（55.9%）でオンライン授業への活用意向が過半数に。

■さらなる推進のための取組は「先生方の研修の強化」（63.3%）が突出して高い。

「ICT活用」で狙いたい効果や変化

■ICT活用の期待効果として、「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」が64.2%でトップ。

新学習指導要領に向けて特に重視していること

■新学習指導要領実施に向けて重視していることの1位は「ICTの活用」（67.8%）。

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校教育改革に関する調査2021」リクルート進学総研調べ”と明記いただけます。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

『リクルート進学総研』WEBサイト：<http://souken.shingakunet.com/>

【調査概要】

■ 調査目的：全日制高校で行われている教育改革（新しい学習指導要領、入学者選抜、ICT活用、キャリア教育、進路指導、学校改革に関する取り組みなど）の実態を明らかにする。

■ 調査期間：2021年2月1日（月）～3月5日（金）投函・インターネット回答締め切り

※2021年3月10日（水）郵送到着分までを集計対象とした。

■ 調査方法：郵送調査＋インターネット調査

※校長宛に調査票を郵送、回答を記入の上郵送または記載のURLからインターネット回答

■ 調査対象：全国の全日制高等学校4738校

■ 集計対象数：1156件（回収率24.4%）

注）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）影響により当初予定2020年を2021年に変更し実施した。
前回調査実施は2018年。

【回答校プロフィール】

■高校設置者（全体／単一回答）（%）

	国公立	私立	無回答
2021年 全体 (n=1156)	73.4	26.0	0.5

■高校所在地（全体／単一回答）（%）

	北海道	東北	北関東・甲信越	北関東	甲信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	中国	四国	九州・沖縄	無回答
2021年 全体 (n=1156)	7.9	12.1	12.1	6.9	5.2	18.0	11.1	2.5	12.4	11.1	8.2	2.9	12.4	0.5

■高校学科（高校タイプ）（全体／単一回答）（%）

	普通科	総合学科	専門学科	その他	無回答
2021年 全体 (n=1156)	78.6	6.5	13.8	0.6	0.5

■大学短大進学率（全体／単一回答）（%）

	70%以上	70%未満	無回答
2021年 全体 (n=1156)	43.7	55.8	0.5

■校務分掌（全体／複数回答）（%）

	校長	副校長・教頭	主幹教諭	教務主任	教務部	進路指導主事	進路指導部	学年主任	学年担当	その他	無回答
2021年 全体 (n=1156)	9.4	24.0	5.5	10.9	1.4	47.3	11.9	0.9	2.8	3.1	0.3

■計画通りいかなかった割合は「特別活動の取組(※1)」82.0%、「進路指導・キャリア教育の取組」69.0%と対面前提で実施してきた取組への影響が大きかった。

(※1) 特別活動とは「ホームルーム活動」や「生徒会活動」、入学式・文化祭・修学旅行等の「学校行事」のこと

■一方、計画以上に進んだのは「ICTの活用」44.6%で圧倒的に高い。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）影響により高校では急速にICT活用が進んでいる。

【「計画より縮小した」「計画していたができなかった」・計】

1位：特別活動の取組（82.0%）

2位：進路指導・キャリア教育の取組（69.0%）

3位：「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の推進（55.6%）

【「計画以上に進んだ」「計画通りに進んだ」・計】

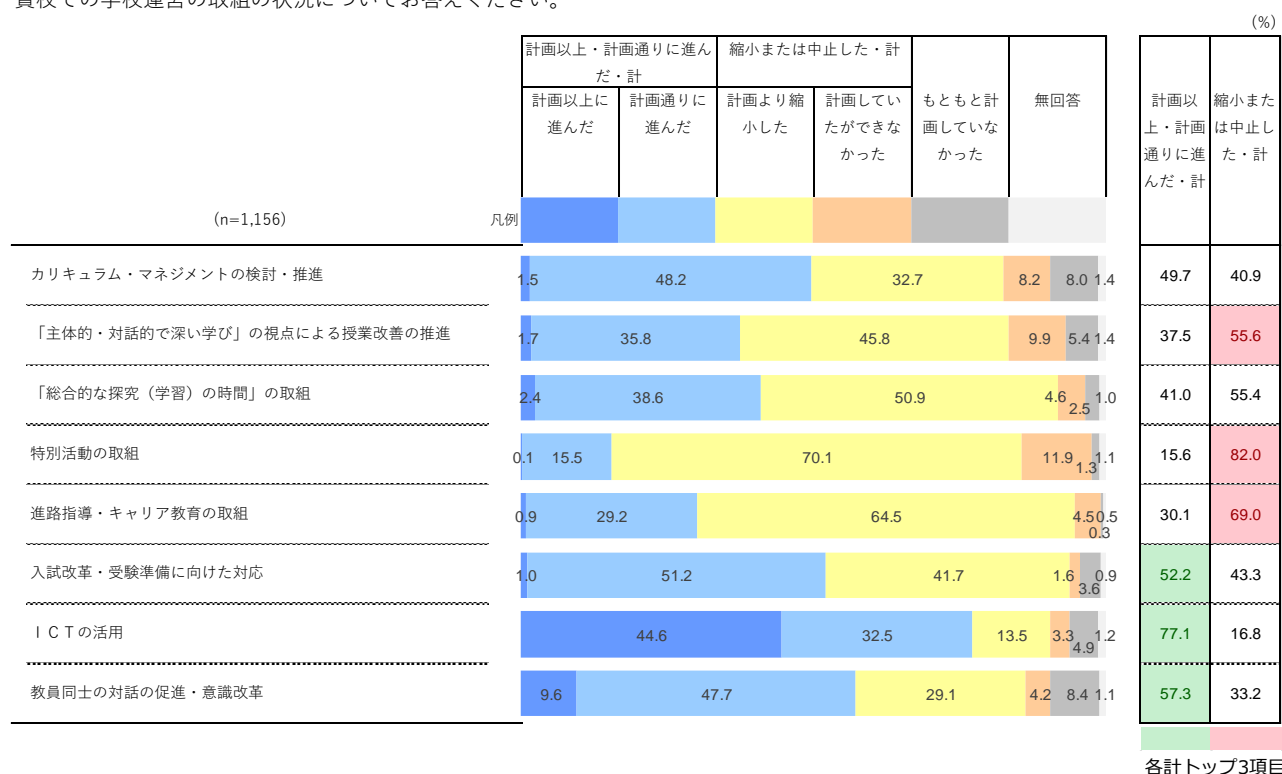
1位：ICTの活用（77.1%）

2位：教員同士の対話の促進・意識改革（57.3%）

3位：入試改革・受験準備に向けた対応（52.2%）

■ 2020年コロナ禍での学校運営の取組状況（全体／各単一回答）

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大が学校運営にも大きな影響を及ぼした1年となりました。
貴校での学校運営の取組の状況についてお答えください。



「ICT活用」がコロナ禍においてどのように推進されたか（フリーコメント）

- 最初の緊急事態宣言以降の休校措置に対応して、オンライン授業をし始める教員が増えてきて、学校自体のICT化がぐっと進みました。意識ある教員がICTに目覚め、教育の質がぐっと上がった気がします。[千葉県／私立]
- ICTシステムを使った授業への対応がこの数年なかなか進まなかったところに、今回の影響で先生、生徒とも一気に習熟が進みました。[長野県／私立]
- ICTの環境が整っておらず、生徒に課題を配信して対応するだけで授業等は進められなかった。[静岡県／県立]
- 県教委、校内ともにICTへの取組が鈍かったが、一気に加速し、授業改善が進みつつある。[愛媛県／県立]

「ICT活用」について ～活用状況～

■96.7%の高校が授業・ホームルーム・探究などの教育活動にICTを活用している。

【「学校全体で組織的に活用推進している」状況について】

- ・学校全体で活用している高校は51.2%で半数以上。
- ・設置者別に見ると、学校全体での活用推進は私立61.1%、国公立47.8%と私立が先行。

■ 教育活動でのICT活用状況（全体／単一回答）

授業、ホームルーム、探究等の教育活動にICTを活用していますか。

		活用・計						
		学校全体で組織的に活用を推進している	学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している	教員個人で活用している	使い始めている（活用はまだこれから）	無回答		活用・計
凡例								
2021年	全体	(n=1,156)	51.2	14.5	31.0	3.0	0.3	96.7
設置者別	国公立	(n= 849)	47.8	13.8	35.2	2.9	0.2	96.8
	私立	(n= 301)	61.1	16.6	18.6	3.3	0.3	96.3
高校	普通科	(n= 909)	52.3	14.4	30.0	3.1	0.2	96.7
タイプ別	総合学科	(n= 75)	52.0	9.3	34.7	2.7	1.3	96.0
	専門学科	(n= 159)	43.4	18.9	34.6	3.1	—	96.9
大短	70%以上・計	(n= 505)	60.8	13.5	23.2	2.2	0.4	97.4
進学率別	70%未満・計	(n= 645)	43.9	15.3	36.9	3.7	0.2	96.1

「ICT活用」について ～活用意向～

■「オンラインによる双方向型授業・学習支援」（55.9%）など授業への活用意向が過半数に。

・ICT活用意向は、『授業での活用（77.8%）』『宿題・課題等の配信（68.0%）』『コミュニケーション（50.1%）』『外部との連携強化（41.5%）』で、授業や宿題での活用意向が強い。

①授業での活用に関する項目：「オンラインによる双方向型授業・学習支援」「対面とオンラインのハイブリッド型授業」「動画配信によるオンデマンド型授業」

②宿題・課題等の配信に関する項目：「宿題・課題等をオンラインで配布」

③コミュニケーションに関する項目：「学校と家庭とのコミュニケーション」「ビデオ会議システムを活用したホームルームの実施」

④外部との連携強化に関する項目：「地域社会や海外との連携、協力の強化」「他の高校との連携、協力の強化」

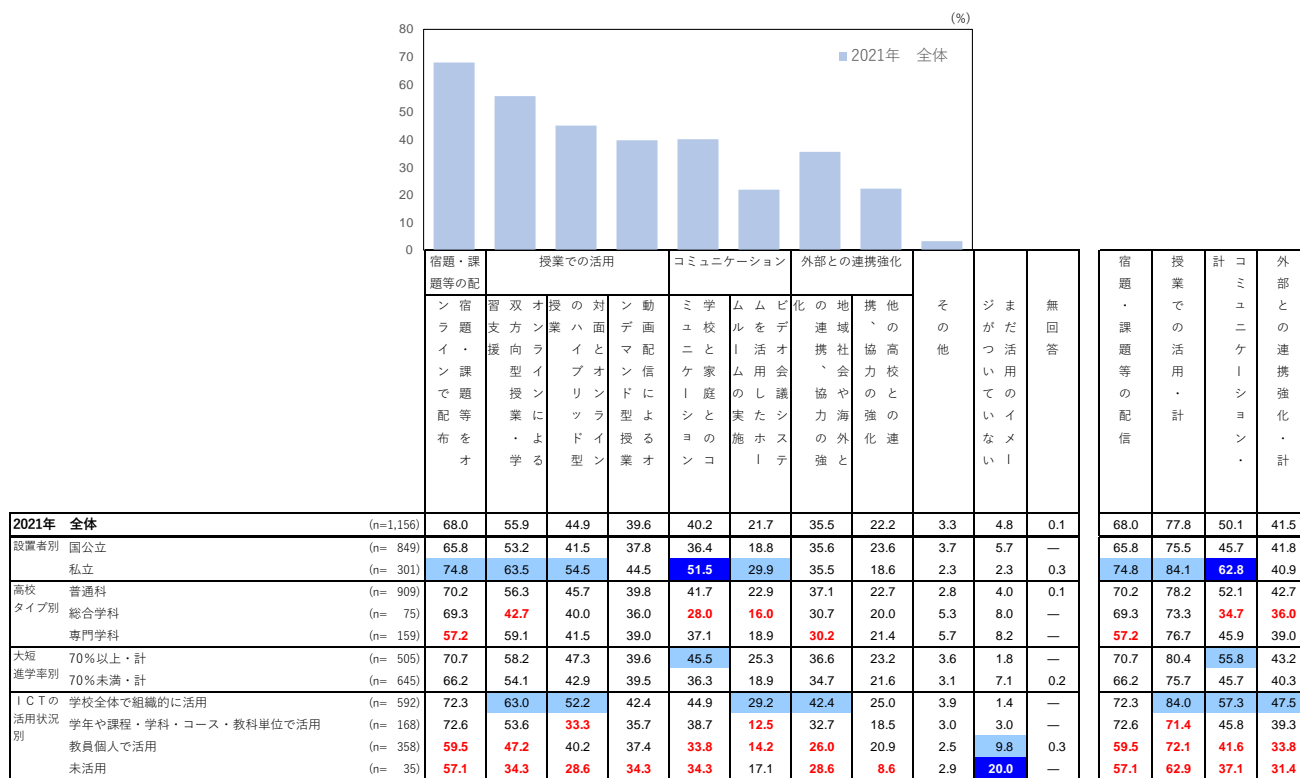
・設置者別に見ると、私立は8項目中6項目で全体よりスコアが高く、「学校と家庭とのコミュニケーション」は全体を10ポイント以上上回る。

・ICT活用状況別に見ると、学校全体で組織的に活用している高校は8項目全てで全体よりスコアが高く、教育活動のあらゆる側面でICT活用を進めようとしている。

■「まだ活用のイメージがついていない」は4.8%と少なく、高校現場では、教育活動においてICTを活用するイメージは既にできている。

■ 今後の教育活動におけるICT活用意向（全体／複数回答）

今後、教育活動においてどのようにICTを活用していきたいとお考えですか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

「ICT活用」について ～活用推進のための取組～

■さらにICT活用を推進していくための取組としては「先生方の研修の強化(校内・校外)」(63.3%)が突出して高い。

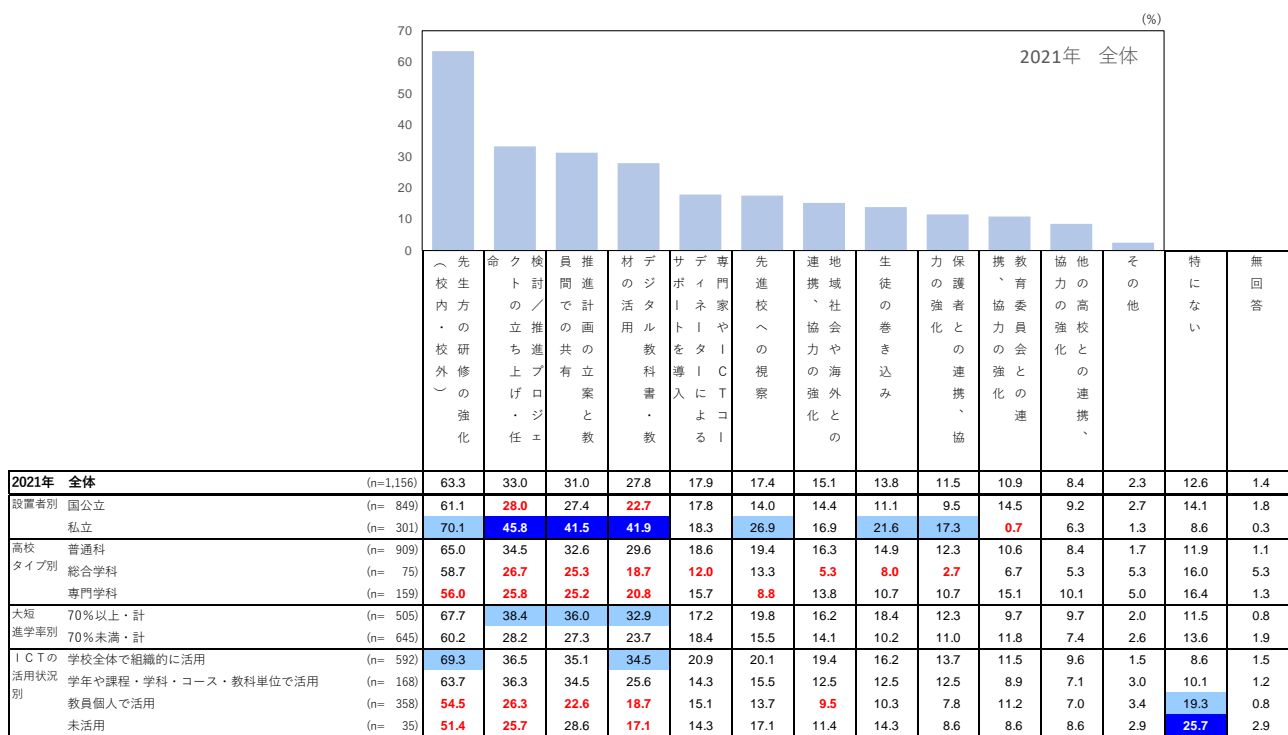
■以下、「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命(33.0%)」「推進計画の立案と教員間での共有(31.0%)」「デジタル教科書・教材の活用(27.8%)」が30%前後で続く。

- 1位：先生方の研修の強化(校内・校外) (63.3%)
- 2位：検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命 (33.0%)
- 3位：推進計画の立案と教員間での共有 (31.0%)
- 4位：デジタル教科書・教材の活用 (27.8%)

・フリーコメントを見ると、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学びを促す授業の開発」「Webオープンキャンパスへの参加促進」「保護者との連携」などの活用推進のための具体的取組が聞かれた。

■ICT活用推進のための取組（全体／複数回答）

GIGAスクール構想の進捗を踏まえ、ICTの活用をさらに推進していくために、現在行われている取組や、今後実施予定の取組がございましたら教えてください。



「ICT活用」推進のための取組について（フリーコメント）

- ICTという言葉が先行し、ICTの効果的な利用方法が教科ごとに行われていない現状があり、教員の自己満足に終わっている感がある。コロナ禍であるが、最低限の教員のICTに関する研修機会が必要と考える。[岐阜県／県立]
- 次年度もオープンキャンパスやインターンシップへの参加は困難であることが予想される。Webによる開催が始まっているので、ICTの活用を通して参加できるよう生徒へ指導したい。[岐阜県／県立]
- (ICTの活用に向けて)教員がタブレット端末を利用して授業を行うことができるよう、研修をした。ペーパーレス化や生徒のより深い学びにつながるように展開していきたい。[秋田県／私立]
- ICTの活用、生徒・保護者への連絡・通信手段としてより一層の活用が迫られている。[千葉県／県立]

「ICT活用」について ～狙いたい効果や変化～

■ICT活用で狙いたい効果としては、「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」が64.2%でトップ。

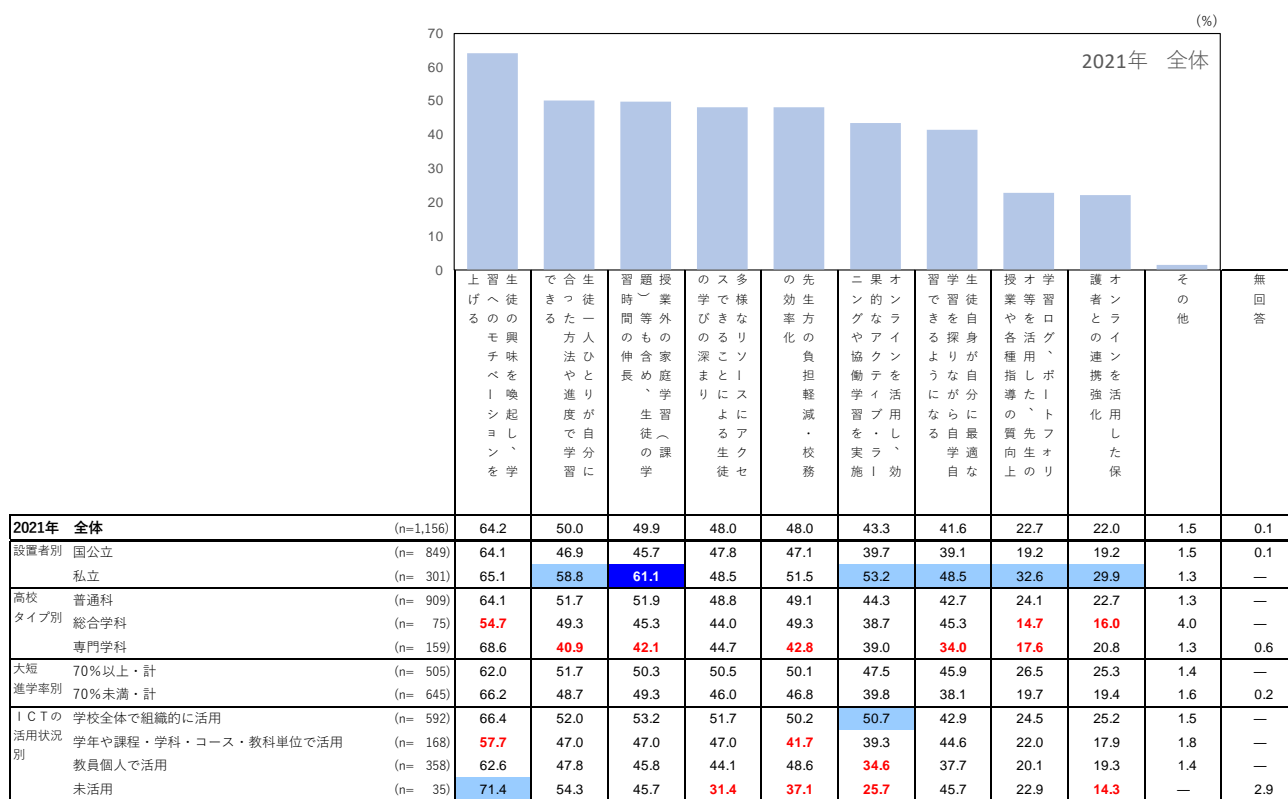
・設置者別に見ると、国公立より私立のスコアが全項目で高く、特に「授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長（61.1%）」が全体より10ポイント以上高い。

・ICT活用状況別に見ると、学校全体で組織的に活用している学校は「オンラインを活用し、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習を実施（50.7%）」が、使い始めていない学校は「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる（71.4%）」のスコアが全体より5ポイント以上高い。

・フリーコメントを見ると、「自宅で学習する習慣が必要であることに生徒が気づいた」「生徒の自主性が顕在化した」「生徒側のモチベーションが成果を左右する」など、生徒自身がICT活用のメリットに気づくことが重要だという声が聞かれた。

■ ICTの活用によって狙いたい効果・変化（全体／複数回答）

ICTの活用によって、どのような効果や変化を狙いたいとお考えですか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

※全体値の降順にソート

「ICT活用」で狙いたい効果～生徒のモチベーションについて～（フリーコメント）

- ・生徒のやる気に影響した。ONLINE学習など自宅で学習する習慣が必要であること、自律的な生活習慣の重要性に生徒が気づいた。[東京都／私立]
- ・生徒の自主性が顕在化した。[千葉県／私立]
- ・オンライン化をしても対面でも、生徒側のモチベーションが成果を左右する。[茨城県／私立]
- ・生徒の学びをストップさせないために、家庭のICT環境を整える必要がある。[広島県／県立]

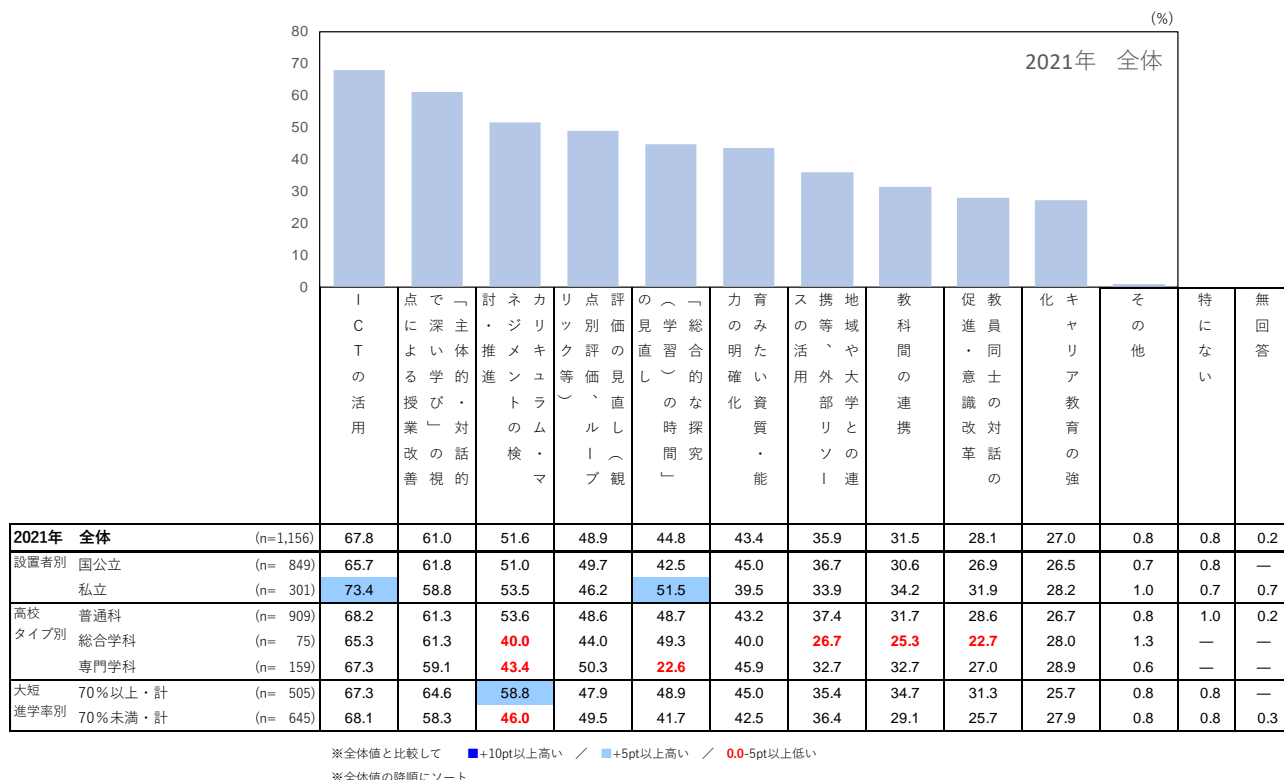
新学習指導要領に向けて特に重視していること

■新学習指導要領実施に向けて重視していることの1位は「ICTの活用」（67.8%）。

・フリーコメントを見ると、「授業改善」「探究活動の推進」「観点別評価」など新学習指導要領で求められている内容についてICT活用とセットで推進していきたいという声が多く、ICT活用をベースにより効果的な教育活動推進方法を模索している。

■ 新学習指導要領の実施に向けて特に重視・注力していること（全体／複数回答）

新学習指導要領の（2022年度から）実施に向けて、特に重視していることや注力していることは何ですか。



「ICT活用」について具体的な取組イメージ（フリーコメント）

- ICTの活用を加速して、教材の提示方法など新たな授業展開の方法を探りたい。[青森県／県立]
- カリキュラムマネジメントを回し、教育活動の改善が確実に図られること。具体的には、探究活動の推進、授業改善と観点別評価の一体化を職員全体でどのように進めていくか、そこにICTをどう絡めるか。[宮城県／県立]
- ICTの活用も行いながら、どうすれば「主体的・対話的で深い学び」が行えるか、互見授業や各教科における授業研究会を行って授業改善を図りたい。[富山県／県立]
- ICTを活用した主体的、対話的で深い学びを促す授業の開発。[愛知県／私立]
- ICTを活用した授業改善を図り、生徒の主体性を向上させたい。[島根県／私立]
- 次年度もオープンキャンパスやインターンシップへの参加は困難であることが予想される。Webによる開催が始まっているので、ICTの活用を通して参加できるよう生徒へ指導したい。[岐阜県／県立]

参考：新学習指導要領とは

「学習指導要領」は、全国どの学校でも一定の水準が保てるよう文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準で、教科書や時間割はこれを基に作られています。社会のニーズや時代の変化に沿って約10年ごとに改訂され、高校では2022年度から新たな学習指導要領に切り替わっていきます。今回の改訂では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるか」を重視し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力・人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指しています。

参考）学習指導要領「生きる力」／文部科学省：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/